

# 水辺のふるさと かつしか 春号

2022.12-2023.2

自然環境レポーター通信



写真のタイトル：コガモ♂

撮影場所：水元公園（水産試験場跡地） 写真提供：下山田 隆さん

# 水辺のふるさとかつしか 春号

## 目次

- 1 55種の動植物調査結果 ..... P 2
- 2 自由レポート ..... P 3～24
- 3 季節の写真集 ..... P 25～30
- 4 魚からの便り ..... P 31～34
- 5 環境課からのお知らせ ..... P 35

### 編集担当からのひとこと

水元かわせみの里を訪問した際、カワセミやカワウが水辺のふれあイルームの前の水辺にいて、間近で観察することができました。

2月に開催した研修会では、双眼鏡を使ってシジュウカラやホシハジロなどの野鳥を観察することができました。また上空では1羽のトビが40羽を超えるカラスに追われていて、さらに周囲からもどんどんカラスが集まってきていました（モビングというそうです）。

寒い冬から暖かい春が近づくにつれ、身近な自然の中からも季節の移り変わりを感じます。これからも自然観察を続けていきたいです。

\*\*\* 佐藤 \*\*\*

# 55種の動植物 調査結果（12月～2月）

## 【調査区3】計6種

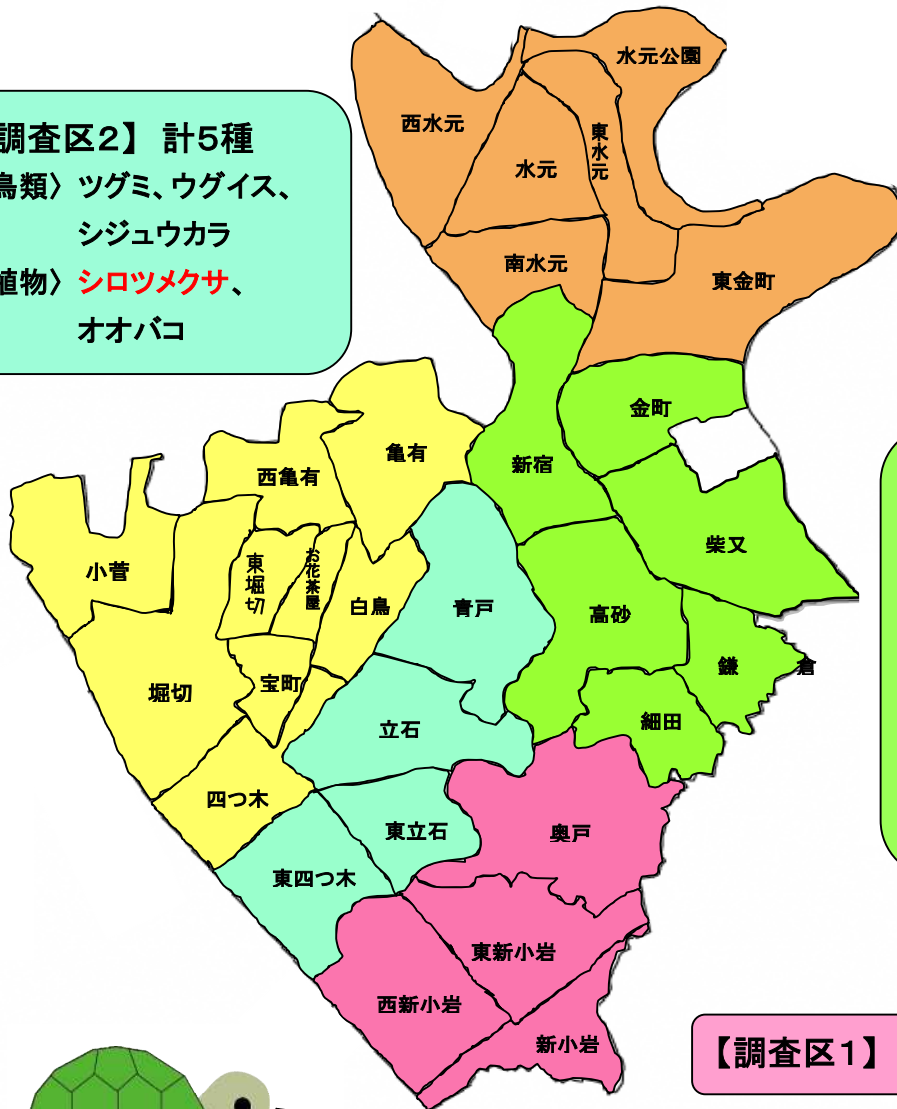
〈鳥類〉コサギ、シジュウカラ  
 〈昆虫〉オオカマキリ  
 〈植物〉シロツメクサ、  
 スズメノエンドウ、  
 オオバコ

## 【調査区5】計9種

〈鳥類〉コガモ、ツグミ、ウグイス、コサギ、  
 カワセミ、コゲラ、シジュウカラ  
 〈昆虫〉ツマグロヒョウモン  
 〈爬虫類〉ミシシippアカミミガメ

## 【調査区2】計5種

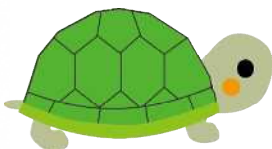
〈鳥類〉ツグミ、ウグイス、  
 シジュウカラ  
 〈植物〉シロツメクサ、  
 オオバコ



## 【調査区4】計8種

〈鳥類〉ウグイス  
 〈昆虫〉オオカマキリ  
 〈植物〉アカメガシワ、スギナ、  
 シロツメクサ、  
 スズメノエンドウ、  
 イモカタバミ、  
 ツユクサ

## 【調査区1】0種



赤字は外来種だよ

晩秋異聞

弥生さくら草

今年の秋は温かい日が続いた。正月が近いので千両の葉が茂り赤い実は鮮やかにになっている頃なのだが、今年は少し違った。葉の色も実も変化が少なかった。薄緑色の葉で実がみかん色に近い。

千両の方が便利に使えるのに何で万両に首座を譲ったのだろうか？何故そんな立派な名前が付けられたのだろうと疑問を感じた時、万両は姿が堂々として風格があるからだろうと勝手に思った。千両は背が高くなる。万両は切ると生命が終わる。などを思いつつ千両を切り仏壇に供えた、

千両は一枝を切り取って水仙などを添えて花瓶に飾ると、玄関や仏壇は正月の雰囲気漂うなどで毎年重宝している。

庭の片隅にオーシャン、ブルーの朝顔が一鉢ある。数年前の晩夏、新小岩保育園前を通った時、職員が一年中咲いて、挿し芽でないと育たないという不思議な朝顔を一枝切り取ってくださった。それを挿し、育てても一向に咲かなかった。三年ほど経った十一月に突然咲いた。びっくりして写真に写し環境課にレポートに添えて送った。過去の資料を探してみたがすぐには出ないので止めたけれど、その不思議な朝顔がまた今年の十一月に開花した。秋になって「もう咲かないから片付けよう」と話したのが聴こえたのかと思った。まだ捨てられない気分である。

令和4年12月11日

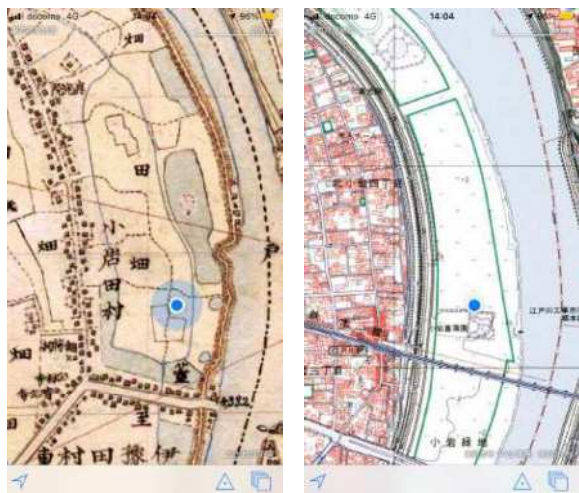
今朝の庭の景色 弥生さくら草

寒さは今年の春ほど来るのが待たれたことがないように感じている。  
毎日「春よ来い」と思いながら寒さに耐えてきた。  
寒さの中にも水仙が凜として梅も咲き終わり、今は桜の開花を待っている。  
見慣れた庭の中で動くものがあり眼を止めると小鳥が一羽、木に止まっている。  
中ぐらいで尾が長い、なんという名だろうと調べたが知識が皆無で見当がつかない。  
すぐに飛んでいったから……………。  
冬枯れの庭にも春が訪れて昨年学習した「ホトケノザ」「アメリカフウロ」「タネツケバナ」が多数芽を出している。  
今年は桜の開花が近いと報じているから、区役所前の桜見物を予定に入れてその日を待っている。

# 牧野富太郎が歩いた江戸川へ、消えたムジナモを探しに

広瀬 温 (調査区2)

この4月、NHK連続テレビ小説「らんまん」が始まる。「日本植物学の父」として知られる牧野富太郎をモデルに、夫婦で苦労を重ねながら植物学の黎明期を切り拓いた物語だ。朝ドラとして、故郷・高知での幼少期から、東京に出て奮闘する姿とともに、植物と向き合う姿勢が描かれるだろう。緑があふれる朝の時間が楽しみになる。



明治前半、江戸川の河川敷は今ほど広くなく、後背湿地に池が点在していた(『東京時層地図』(一財)日本地図センターより)



が点在するヨシ原にヤナギが繁っていたと推測できるという。

河川敷が広げられて池がなくなり、江戸川からムジナモは消えた。日本国内からも自生地は消滅している。以前、水元公園の「水辺のいきもの館」でムジナモの写真を撮ったのを思い出し、水元公園へ向かう。

残念ながら、ムジナモは3年ほど前に何者かに盗まれてしまい・・・消えていた。復活させる計画は今のところないという。ムジナモの生態は、図鑑やTVの映像からでも知ることはできるが、現物から伝わるものは大きい。

かつて江戸川流域で生息していた種が身近で見られれば、葛飾の自然環境への関心が高まる。毎朝、牧野富太郎に接するこの春、ムジナモ栽培の復活を期待したい。

今から130年前、明治23年(1889)5月、牧野富太郎はヤナギの実を採取するために江戸川の土手を歩いていた。明治21年に結婚し、同年資金をつぎ込んで『日本植物誌図篇』の刊行を開始、植物学者の間で評価を高めていた時期である。京成線はもちろん、総武線もまだない時代、東京市中から12kmほど、江戸川の舟運か人力車を利用して訪れたのだろうか。

土手を降りて池の畔に立つと、水中に漂うものがある。見たこともない形状で、初めは虫かと思ったが、手に取ると植物のようだ。大学の植物学教室に持ち帰って調べると、食虫植物だとわかった。ヨーロッパ、インド、オーストラリアの一部に生息するというが、日本で発見されるのは初めて。ムジナ(タヌキ)の尾に見立てて「ムジナモ」と名付け、細密画とともにドイツの雑誌に発表し、世界的に有名になった。

京成線江戸川鉄橋から見える小岩菖蒲園の端に「ムジナモ発見の地」碑が立つ。自然研修で江戸川沿いを歩くと、江戸川の自然環境を考える会の田中利勝さんから明治期の景観について説明があった。牧野富太郎は「ハルセミはもはや殆ど鳴き尽してどこを見ても、青葉若葉の五月十一日・・・」と書き残している。4月から鳴き始めるハルゼミは小型のセミで松林に生息する。当時、国府台や小岩には松林が多く、池



# 鎌倉公園リニューアルから考える「生物多様性かつしか戦略」

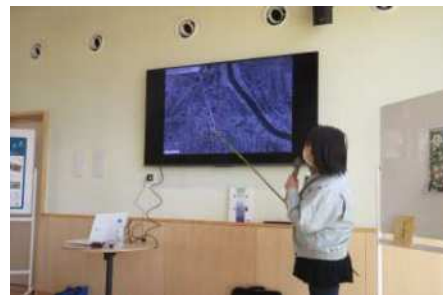
広瀬 温 (調査区2)



1月、鎌倉公園の北側エリアが、3年にわたる改修工事を終え、リニューアルオープンした。南側エリアは昨年3月、一足先に開園し「地域の庭として人々が集い憩える公園」として親しまれている。

2月18日、鎌倉公園で、郷土と天文の博物館・小峰園子学芸員による講座「ふるさと鎌倉の歴史」が開かれた。「鎌倉」の名は相模国鎌倉郡から移り住んできた源右衛門さんが周辺を開拓したことによるとい

う。区内他地区と同様、水とともに生きてきた地域で、人の手を加えながら自然の体系を守ってきた。たくさんの生きものが生息し、江戸時代には鷹狩りの猟場となり、また江戸近郊の農村として発展してきた。地域の歴史背景を知ると、現在の自然景観への理解が深まり、未来の自然環境への展望につながる。



水田が宅地化され、自然が急速に失われた高度成長期、「地域の消えゆく野草を守りたい」という地元の強い意志で、1971年、野草園が開園した。

改修前、野草園の隣には屋外プールがあったが、今はじゃぶじゃぶ池になり、隣には大きな滑り台がある。

2月中旬、野草の観察には寒いが、大きな滑り台は子どもたちでいっぱい。暖かい管理棟の中ではニホンアカガエルやタモロコなどが飼育され、カエルを例に自然を身近に感じるパネル展示に親子連れが集まっている。



2020年12月の自然研修会で水元かわせみの里を訪れた際、整備中だった鎌倉公園のカエルが飼育されていたのを思い出し、スタッフの方に確認したところ、同じ団体が運営しているという。野草園の水路にニホンアカガエルの卵塊、ギンヤンマのやごがいと聞き、池に確認しに行く。もう一度園内を回ると、生きものにやさしいしかけをそこかしこに発見。自然に詳しい専門スタッフが常駐し、日々観察しながら手を加えているのが頼もしい。

親子連れやシニアが集い憩い、自然に親しむ鎌倉公園は「生物多様性かつしか戦略」を進める上で発信基地となる。区内7番目の「カンタンの里」の設置が待たれる。



# 荒川放水路で考える「流域治水」、自然環境「親・知・守・伝」

広瀬 温 (調査区2)

京成本線の荒川橋梁架替工事がようやく始まった。2035年完成予定と先は長い、京成線の車窓から工事の進捗を見守りたい。



2月18日、荒川放水路通水100周年企画市民講座「みんなで取り組む流域治水」に参加する。2020年に国の水害対策の基本方針が大きく転換し、国交省を中心に取り組んできたそれまでの治水対策から、都県や市区町村などの河川管理者や河川周辺の企業・住民も協力してみんなで考える「流域治水」へと大きくシフトしている。葛飾区はもちろん、区民も協働して荒川の治水を考えていく姿勢が望まれる。

翌週の26日、あらかわ学会の年次大会に参加する。1996年に結成され、今年で27回目。荒川の流域で環境

保全や防災に取り組むNPO・教育機関から20近くの研究発表があり、学ぶものが多い。初めて参加したが、過去の発表リストには葛飾の知人の名も見える。

「流域治水」・・・葛飾区民は何をすればよいのだろうかと考えながら、荒川河川敷を自転車で回る。荒川の土手に立ち、いつも乗っている電車を眺めると、京成の鉄橋は並行する都道の堀切橋より2m以上低い。水位が上がったら、京成線の堤防から越流するのは明らかだ。

河川敷は野球・サッカーのグラウンドが続き、10年前は毎週のように子どもの応援に訪れていた。北西からの強風でボールが押し戻される冬、砂ぼこりと花粉でスカイツリーが霞む春、熱中症対策で見ているほうも水分補給が欠かせない炎天下、スポーツに適したさわやかな秋は年々短くなり・・・自然を愛でる余裕はないが、荒川放水路には葛飾一の空が広がる。



首都高の堀切JCTの南にビオトープがある。地図には載っていないが、だれが管理しているのだろうか。「葛飾あらかわ水辺公園」が整備中の今、水辺の貴重な自然空間だ。

10年近く前、自然研修で佐々木洋さんから自然とつきあう基本姿勢を学んだ。まずは自然に「親しむ」→疑問に思ったことは調べて「知る」→大切なものを「守る」→次の世代に「伝える」。シンプルでストレートな心構えだ。以来、自然観察会では「親・知・守・伝」と呪文を唱えながら歩いている。

一人でも多くの区民が荒川に親しめるよう、荒川で遊ぶ・荒川を遊ぶしかけづくり、放水路の歴史を知り、故郷を守る防災、次世代に伝える自然環境の保全につながる。まずは荒川に親しむ環境づくりから始めたい。



# 野鳥好き中学生による葛飾区其自然観察日記！！

作成者：千葉美文

調査区域：2, 3, 5,

12月

忙しかったので記録なし。

1月

1月1日 晴れ 中川（立石付近）でホシハジロを発見。10羽ほどいる。

1月21日 晴れ 江戸川にコミミズクがいると聞いて自転車で向かう。向かう途中でチョウゲンボウを確認。コミミズクが出るのは三郷駅付近で葛飾区内ではなく行くのに時間がかかる。また、この日はでてこなかった。ネットでは水元付近の河川敷まで来たという情報もある。4羽ほどいるようなので葛飾区の方まで下って来る個体もいるかも。

2月

2月5日 晴れ 水元公園にてオオタカ、アカハラ、ジョウビタキ、ルリビタキ、バン、アオジなどを確認。



↑オオタカ



↑バン けっこう好きな鳥。

2月26日 晴れ 久しぶりに青戸平和公園に来てみるとツミがいた。知人によると2月5日からオス、メスともにまたよく来るようになったそうだ。今年も繁殖するかもしれない。

2月28日 晴れ 青戸平和公園にてツミが渡来。いつものオスとメスのペアのほかに亜成鳥メスが2羽来ていたがケンカしなかった。(亜成鳥2羽は青戸平和公園で去年生まれた子供の可能性が高い。) タカが群れているところはなかなか見ないので面白かった。



←やってきたメスの亜成鳥。

写真には写っていないがこの近くにいるものツミの夫婦がいる。

氏名：藤並 剛 町名：亀有 調査区：3

12月4日（日）午後2時から4時まで、天気は晴れ（風なし）、気温は15度くらい。都立水元公園の水辺の生きもの館周辺。本日はESD-KAK主催の自然観察会（講師は佐々木洋氏）だ。水元公園へ出かけると、講師から「モミジとカエデの違いはないこと」、「イロハモミジは、イロハカエデともいえること」などの解説で、観察会が始まった。本日は、子ども10人、大人23人の合計33人参加の観察会となった。モグラ塚の解説では、モグラが土のトンネルを回りながら、ミミズやセミの幼虫を食べ、そのモグラは、フクロウなど猛禽類が食べるという生態系ピラミッドのことを子どもにも分かるように話された。水元公園で、フクロウが吐き出したペリットから、モグラの体の一部が見つかったことを話されると、子どもたちのまなざしが真剣になった。また、子どもたちの虫さがしに付き合いながら、講師が生き残った昆虫も見つけ出した。アオマツムシやコバネイナゴ、オンブバッタなど、初冬のこの時期にはいない昆虫であると解説された。そして、昆虫さがしは続き、子どもたちはハサミムシを発見した。これは、大きな石をひっくり返し、その石の下にいた昆虫たちであった。私が勤務する小学校の中央区では、校庭で昆虫を見つけることに一苦労する。ハサミムシもゲームで知るのみで、実際に見たことがない子どもが多い。しかし、葛飾区の子供たちは五感を使って、身近な昆虫に出会える機会が残されている。この自然をいつまでも残すために、大人たちは努力すべきである。

暖かい一日となったこの日、大人も子どもも自然を満喫した。

12月11日（日）午前11時頃、天気は晴れ（風少し有）、気温は12度くらい。亀有3丁目の中川橋周辺。野鳥は、ヒヨドリ、コサギ（1）、オオバン（12）、シジュウカラ（2）を見つけた。植物は、ホトケノザ（3～4）、シロツメクサ（3）、コセンダングサ、ヨシを見つけた。イロハモミジやコナラ、クヌギの葉は、赤みがかったり、黄色や茶色が残っていた。イチョウやケヤキは既に落葉になった。

12月25日（日）午前11時頃、天気は晴れ（風強し）、気温は9度くらい。亀有3丁目の中川橋周辺。野鳥は、ヒヨドリ、ハクセキレイ（2）、シジュウカラ（1）、オオバン（3）を見つけた。植物は、サザンカの花が咲いていた。

1月1日（日・祝）午後1時頃、天気は晴れ（風なし）、気温は12度くらい。亀有3丁目の中川橋周辺。野鳥は、ヒヨドリ、ヒドリガモ（7）、オオバン（2）、カワウ（2）を見つけた。植物は、サザンカを見つけた。

1月9日（月・祝）午前11時頃、天気は晴れ（風なし）、気温は12度くらい。亀有3丁目の中川橋周辺。野鳥は、ユリカモメ（1）、カワウ（1）、ハク

セキレイ (1)、カルガモ (4)、オオバン (1) を見つけた。植物は、オッタチカタバミ、ハコベ、ノゲシを見つけた。ツバキ、サザンカの花が咲いていた。

1月26日 (木) 午後1時頃、天気は晴れ (風少し有)、気温は10度くらい。亀有3丁目の中川橋周辺。野鳥は、ヒヨドリ、カワウ (2)、ハクセキレイ (2) を見つけた。植物は、サザンカ、ツバキの花が咲いていた。

1月29日 (日) 午後3時頃、天気は晴れ (風少し有)、気温は5度くらい。亀有3丁目の中川橋周辺。野鳥は、ヒヨドリ、スズメ、ユリカモメ、カルガモ (2)、オオバン (2)、カワウ (2)、ハクセキレイ (1) を見つけた。植物は、ツバキ、サザンカの花が咲いていた。

2月5日 (日) 午後2時頃、天気は晴れ (風少し有)、気温は12度くらい。亀有3丁目の中川橋周辺。野鳥は、ムクドリ、ヒヨドリ、スズメ、オオバン (2)、カワウ (5)、メジロ (2)、シジュウカラ (1)、ユリカモメ (2)、ダイサギ (1)、ハクセキレイ (1)、タヒバリ (3) を見つけた。植物は、オオイヌノフグリ、ホトケノザ、ナズナ (1)、オランダミミナグサ (1) を見つけた。ツバキ、サザンカの花が咲いていた。この日は、寒さが続いたあとの暖かい日となり、冬鳥と留鳥がその暖かさに連れられて現れたようだった。

2月11日 (土・祝) 午後1時頃、天気は晴れ (風少し有)、気温は13度くらい。亀有3丁目の中川橋周辺。野鳥は、スズメ、ヒヨドリ、キジバト (1)、ハクセキレイ (3)、シジュウカラ (5)、カワウ (5)、オオバン (4)、タヒバリ (3) を見つけた。植物は、オオイヌノフグリ、セイヨウタンポポ (3)、ハコベ、ホトケノザを見つけた。ツバキの花が咲いていた。昨日は、関東地方でも大雪となり、東京都内でも雪が降った。そして、今日 (2/11) は春の陽気であり、野鳥の動きも活発となった。

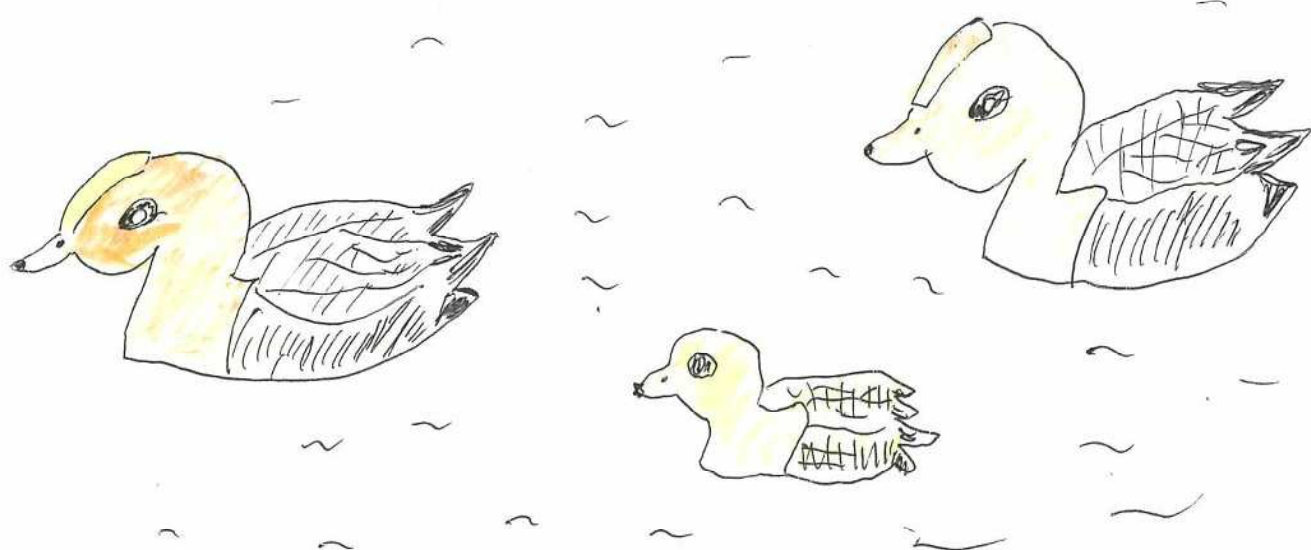
私は、2023年、原点回帰の年としたい。原点は、葛飾区自然”感”察指導員養成講座 (講師、佐々木洋氏) である。2005年から第1回の講座が始まり、2016年まで続けられたものだ。私は、第1回から第6回まで、毎年参加し、自然・環境について、この講座を通じて学びを発展させた。講師の佐々木氏は、「身近な自然にふれることがなければ、大きな自然は理解できない」とおっしゃっていた。佐々木氏が著書\*で、「《都会のカラスは、ハシブトガラスといわれ続けてきたけれど、果たして本当だろうか。ハシボソガラスが、かなり混じってきていないだろうか。》とか、《アオマツムシは、増え続ける一方だとされているが今年は、ちょっと数が少なめだったように思えるのは、どうしてだろうか》など」の疑問を日常生活の中でいただくことが大切だと主張される。そして、

「もしかしたら、誰一人として、明確な答えを出せないような疑問が、私たちの身の周りには、山ほど存在しているのだ。ただ、そういった《変化》に気づくことすらせず、当然それらに対する《疑問》ももたずに生活している人のほうが、圧倒的に多いのが現実である。前作でも強く訴えてきたように、《身の周りの自然を知る》ということは、けっして難しいことでも、一部の趣味の世界でも、もちろん根暗なことでもなく、毎日の生活をずっとずっと楽しいものにしてくれることだと思うのだ。スポーツにうちこむのもよいし、芸術を追求するのも素晴らしい」というのだ。しかし、「少しおおげさに言わせてもらえば、人生には、一つでも楽しみが多いほうがよいに決まっている。各自がすでにもっている様々な楽しみのなかに、《身の周りの自然を知る》ということ、一つつけ加えてみてはどうだろうかと思うのである。きっと、街は、ますますワンダーランドへと変わるにちがいない」というのだ。

引用が長くなったが、佐々木氏が大切にされるこのことをもち続け、これからも子どもたちの未来のために頑張りたいと思う。(2023年2月11日)

\*引用・参考文献

佐々木洋『都市動物たちの事件簿2』NTT出版、1998年



氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

2022年12月3日

## クリスマスっぽい植物



左上 ノイバラ、右上 ヒヨドリジョウゴ、左下 マンリョウ、右下 クロガネモチ  
区内北西部 令和4年12月3日

クリスマスが近いので、赤い実がなる在来植物を近所で探しました。

クロガネモチは栽培されているもので、関東以西にはえるらしいので、微妙ですが、全体的に海に近い低湿地の、葛飾らしい植物がそろいました。

近所の緑地で赤い実などを見る、静かなクリスマスも中々良いです。

誰かプレゼントください。

氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

2023年1月1日

## アオツツラフジ



アオツツラフジ（雌株の実）

区内北西部 令和4年10月2日



アオツツラフジ（雌株の実）

区内北西部 令和5年1月1日

アオツツラフジの雌株の実です。

2か月で実がこれだけ減っています。

隣接区の立ち入り禁止区域内に大規模な繁茂が見られました。どうも、そこから飛んで来ている様です。観察区域で3か所見ることができ、区内では比較的多いエリアな様な気がします。

氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

2023年2月11日

## キカラスウリ



キカラスウリ

区内北西部 令和5年2月4日

キカラスウリです。

昨年も1か所、生えていましたが、今年は近くでもっと多くの実がなって木に巻き付いていました。

今年は、離れた所にもう一か所、10個程度、木に巻き付き、結実していて、最初はミカン類の木が生えていると見間違える程でした。

カラスウリは近所で見たことは無いのですが、近年キカラスウリは見るようになりました。

氏名：となり 調査区 4 2022年12月～2023年2月

《《 鎌倉町の自宅の庭 》》 基本的に自宅の庭だけを観察対象としています。



2022年12月14日  
ホソヒラタアブ 黄色の部分が多い個体

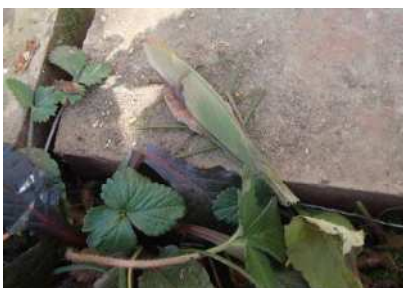


2022年12月14日  
クロヒラタアブ 白黒の個体



2022年12月27日  
オオカマキリ  
十何年ぶりに発見。  
ゆっくり歩いていた。

後日、頭がない状態で見つかった。  
更に後日、縁側下に置いてあった空  
の植木鉢の中で見つかった。腹の一  
部がない状態だった。  
ネズミかネコが食べたんだと思う。



2023年1月12日



2023年1月下旬頃



● 葛飾区自然環境レポーター 自由レポート ●	調査月	2022.12～2023.2月	名前	むしあお
-------------------------	-----	-----------------	----	------

● 観察日：12/26

● 調査区：4-22（新宿）

にいじゅくみらい公園。冬鳥のタヒバリが今年も飛来。  
10羽程度の群れで、地面をつついて採食していることが多い。



● 観察日：1/15

● 調査区：5-26（水元公園）

ツグミについて。

12～1月、南水元の住宅エリアではツグミをまったく見なかった。

今冬は飛来がとても少ない？？と思いきや、この日水元公園に行ったら、ものすごく沢山いた。

ただ、もう1月だというのに数十羽の群れで行動している様子。

飛来が遅かったのだろうか。

→2月上旬～中旬になって、ようやく住宅地エリアで単独行動を頻繁に見るようになった。

この日は、キジバトも15羽前後の群れで採食しているのを確認。

群れで行動するイメージがなかったので新鮮な光景だった。

季節的なものなのか、環境による理由があるのかなど気になるので、継続して見ていきたい。



●観察日：2/12

●調査区：5-26（水元公園）

タマシギ（オス）。初めて見た！

メスのほうが鮮やかで美しい鳥ではあるが、オスもじゅうぶん美しいと思う（この写真では伝わらない）



その他、この日はワカケホンセイインコを確認。東京の東側で見たのは初めて。  
分布を広げていると思われる・・・。

●観察日：2/25

●調査区：5-26（水元公園）

【自然環境レポーター研修会：早春の自然観察会】参加

『野鳥と動植物のつながり』というテーマで、水元かわせみの里の専門員の方にレクチャーしていただきながらかわせみの里周辺を歩いた。

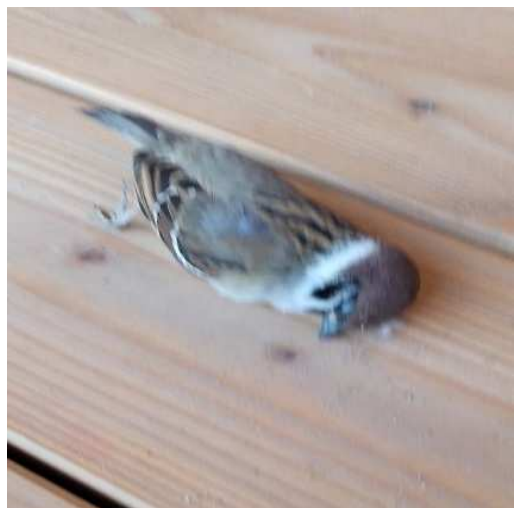
<観察できたこと・学んだこと>

- ・シジュウカラが葦の茎に止まって食べ物を探している様子を観察。  
葉鞘の間隙にいる「ビワコカタカイガラモドキ」というカイガラムシの仲間を食べるらしい。
- ・ヒヨドリがヤブツバキの花蜜を食べているところを観察。食べた後、くちばしの周りが花粉で黄色くなっていた。
- ・ヤブツバキは鳥媒花。（一部のチョウを除き、赤い色は昆虫の目には見えならしい。）  
そのため、鳥が乗っても大丈夫なように、付け根部分が重なるような花弁のつくりになっているとのこと。  
→その後調べたところ、雄しべが根元で筒状に一体化しており、それも花冠とつながっているらしい  
そのような頑丈なつくりのため、花が終わると一体としてポトッと地面に落ちる。  
（鳥媒花というのは、花期が寒い時季で虫がいないというのも関係しているはず）
- ・エナガ  
千葉北西部では眉斑が薄めの個体が見られ、通称「チバエナガ」と呼ばれている。  
大人気シマエナガならぬ、チバエナガ。※ただし正式な亜種ではない。  
この日の観察会でもチバエナガが見られた。
- ・鳥のうんちの話。  
白いうんちは肉食の鳥のもの。ヒヨドリのは黒くて細長い。  
フンの内容物を取り出して標本にした物を見せてもらった。アリは形がしっかり残っていた。  
トウネズミモチの種子がいちばん多かった。
- ・たくさんのカラスにモビングされるトビを発見。トビはカラスを襲うわけではないのに、他の（カラスを襲う）猛禽と同じ扱いでモビングされるらしい。気の毒…
- ・ふれあいルームに帰ってきてまとめの講義。  
谷津干潟では、12年連続で、同じキアシシギの個体が認識されたという話が印象に残った。  
ロシア～オーストラリアまで往復24000km×12という、ヒトでは考えられない驚異。鳥はずごい。

# 自然観察レポート R4/12月～R5/2月

## 調査区5 佐々木定治

### 2022年の終わりにから 2023年の春へ



2022年12月16日 水元3丁目



2022年12月20日理科大前



↑2023年1月8日 タンポポ 水元3丁目

2月2日 フキノトウ (フキ) 水元3丁目↓



2月2日 セリ 水元3丁目



2022年もコロナ禍に翻弄された年でした。これまで培ってきた人としての生活スタイルを、新スタイルとかいう括りで、変えざるを得ない日常になってしまいました。

最近めっきり目に付くことが減少している「スズメ」の亡骸を12月16日の早朝に発見しました。理科大前の電飾の華が、冬の夜空を落ち着いた色彩に彩り、2022年も暮れていきます。

2023年1月のタンポポ 2月のセリやフキノトウ (フキ) が春を運んでいます。

少しずつの自然の変化を見ながら、季節の移ろいを覚えることは、冬から春への心と体の準備の為の大切なシグナルになっています。

# 早春の自然観察会



水元かわせみの里専門員の解説



ヒドリガモ



ゆっくり散策しながらの観察会



こんなに素晴らしい天候の中での観察会



渡り鳥の解説

かわせみの里専門員の方の解説は、丁寧で分かりやすく、多岐にわたりご指導をいただき感謝しました。

令和5年(2023年)2月25日 午前10時～正午に水元かわせみの里(水元公園8番3号)を本拠地にして「野鳥と動植物のつながり」をテーマとした、自然環境レポーターの研修会を開催していただきました。講師は、水元かわせみの里専門員の先生が担当してくださいました。

当日は風の寒さの中でも、青い空が見える早春を満喫しながらの、観察会でした。ヒヨドリがヤブツバキの蜜をついばんだ形跡やオオバン ヒドリガモ シギ シジュウカラ カワセミなどをはじめ多くの野鳥のさえずりや姿を発見することができました。

- ① 鳥が生息することで、森がえられる。
- ② 幹や葉が緑のアオキの赤い実は鳥に目立つ色でその実を食べることで種が地面から発芽し増えていく。
- ③ 渡り鳥の超飛来エネルギーに感動・・・多くの学びをさせていただきました。



### 調査区：5

(水元公園・江戸川中心に活動)  
ノスリとチョウゲンボウの写真は江戸川で撮影。チョウゲンボウは人の動きに敏感だが、ノスリは3m程度まで近寄っても逃げず人に慣れていている様子。 T・K



ノスリ(カラスより少し大きい)：写真は全て江戸川。写真上左 2023年1月29日。上右 2月11日、下左1枚目1月11日、下左から2~4枚目2月4日、下一番右2月11日。写真右上、この後カラス2羽に追いかけれ松戸方向へ飛んで行った。



チョウゲンボウ(鳩程度の大きさ)：写真左 2023年2月5日葛西神社、真中と右2月4日江戸川 ホバリングし獲物を探す

下の全写真 2023年2月4日16時前後 ごんぱち池~水辺のさと 1時間程度で15種の野鳥との出会い。最高のField。



コサギ	ダイサギ	アオサギ	カワウ	オオバン
カワセミ	ジョウビタキ	シジュウカラ	メジロ	ツグミ
ムクドリ	ヒヨドリ	ヒドリガモ	カルガモ	カイツブリ



## 葛飾区自然環境レポーター 自由レポート（2023年1～2月）

氏名：江戸川の小鮎	調査区：主に5-24、5-26	町名：東金町
-----------	-----------------	--------

1月9日（月） 東金町7丁目地先 江戸川堤防上 → 水元公園小合溜 → メタセコイアの森

冬真っ只中の江戸川堤に出てみると、堤防上の草地にはホトケノザが姿を見せていた（写真①）。寒さはまだ厳しいが、日当たりのよい場所には春を感じさせる植物が姿を見せてくれる。

水元公園園内のメタセコイアの森は青空に映えてとても美しかった（写真②）。中央に以前オオタカが作った巣が残っているが、今年の繁殖活動はいかがだろうか？



写真① 江戸川堤防上のホトケノザ



写真② 水元公園メタセコイアの森

2月4日（土） 水元公園

昼過ぎに水元公園に自然観察がてらお弁当を持って“外ランチ”に出かけた。ふと目の前のハンノキを見ると、枝にカマキリの卵（ハラビロカマキリでしょうか？）が付いていた。周りを見渡すと、砂ぼこりが飛んでいるのか景色が霞んで見えた。はて？何かと思いきや、なんとハンノキから大量の花粉が飛散していたことが分かった。ハンノキはスギよりも一足早く大量の花粉を飛ばしている様子。自然観察の際にも、花粉症のある方はどうぞくれぐれもご用心ください。

公園内のスイレン池を見ると、人為的にでしょうか、池の水が殆どぬかれていました（写真③）。近寄って見ると、池の底には少なくない空き缶などのゴミがありました。何とも言えない悲しい気持ちになりましたが、きっと小合溜の底にも大量のゴミが沈んでいるのでしょね。



写真③ スイレン池



写真④ ロウバイ

## 2月5日（日） 東金町7丁目地先江戸川堤

土手に上がるとすぐ目に飛び込んできたのはチョウゲンボウ。土手の上空でホバリングをしながら少しずつ場所を変えて、堤防上の獲物を探しているようでした。しばらくすると堤防上の草原に急降下していましたが、獲物を捕れたかどうかははっきりとは分かりませんでした。

## 2月11日（土） 水元公園



写真⑤ ツグミ

暖かい日差しを受けながら公園内のベンチで過ごしていると、すごそばにツグミが近づいてきて地面の上の餌となるものを食べている。しばらくの間、ツグミ独特の「だるまさんが転んだ」状態で地面の上を移動しながら、餌をついばんでいた。

## 2月25日（土） 水元公園 自然環境レポーター研修

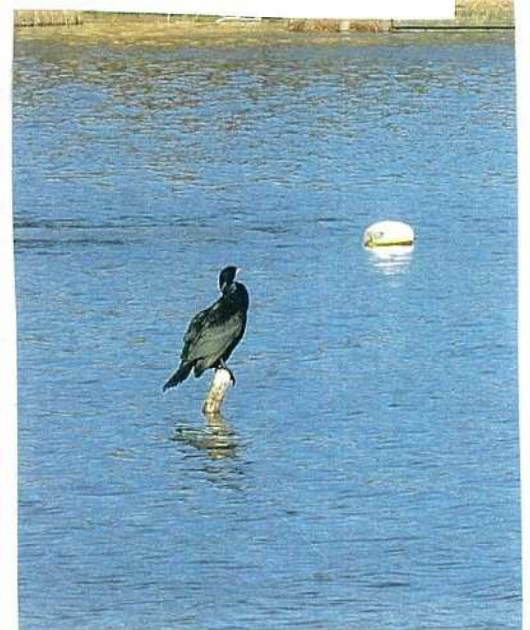
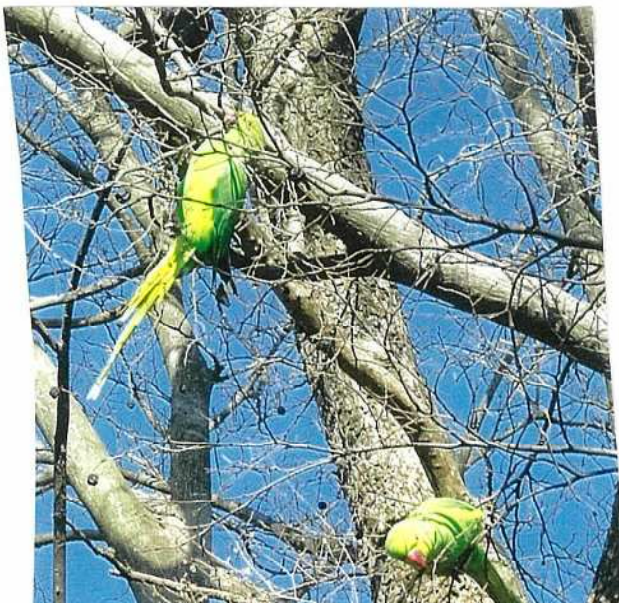
水元公園かわせみの里中心に自然観察を行った。寒いなかではあったもの沢山の発見があり、たいへん勉強になった。特に野鳥の糞からどのようなものを食べているか調査した結果は大変勉強になった。また、野鳥と植物の関係性なども大変興味深かった。今後もこうした研修を是非実施していただいて、レポーターのスキルアップにつながればと思いました。環境課の皆さまありがとうございました。

氏名	K・N	町名	東金町	調査区	5
(水元公園正面入口～養魚場入口間の指定種の植物と昆虫)					
鳥類は大橋周囲～小合溜					
種類	植物・蝶々・野鳥 (令和4～5年)				

種類	12月	1月	2月	種類	12月	1月	2月
セイヨウタンポポ	0	2	0	シロツメ	0	0	0
ツユクサ	0	0	0	カモ類	300	60以上	50以上
シジミチョウ	0	0	0	アオサギ	5三郷側	2	1
クロアゲハ	0	0	0	コサギ	0	1	2
モンシロチョウ	0	0	0	ユリカモメ	30以上	40以上	50以上
アゲハチョウ	0	0	0				

### 野鳥情報

- ① 1月10日公園入り口の桜の大木の上空に緑色の鳥が二羽いた。  
カメラの人も数人、鳥の名は？あわてて写真をとった。
- ② 2月10日、溜池の中央に珍しい景色が見られた。高齢のおじいさんが  
「野鳥があそこに止まっているなんて初めて見たよ」数人の見物客がうなずく。  
しばらく観察してみたが、とまったままだった。鳥の名前は？



(水辺のふれあい通信 12月20日号参照)



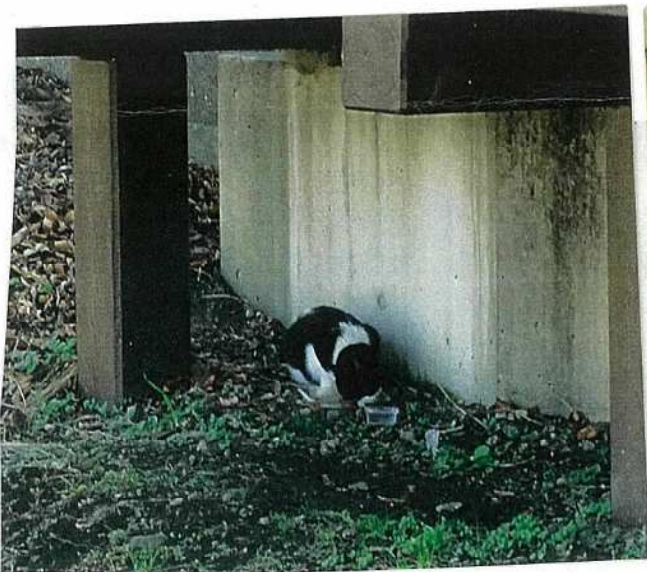
### 植物情報

- ① 某テレビで梅の花が1ヶ月早く咲いたという情報あり。1月10日の観察日に東金町4丁目の路地を散策中某団地の公園内に満開の木を見つけた。
- ② 11月下旬に豆のタネをもらったので撒いてみた。順調に芽がでて成長を続けていた。近所の人に「寒そうですね」とアドバイスを受け、簡単なおおいをした。2月某日、雪が降るといのでビニールを追加した。暖冬のせいか花が咲いてきた。三月に実がなるというが、楽しみにしている。



### ③ 動物情報

- ・水元公園のあちこちで「のらねこ」にあうが、寒さであまりみかけなかった。第二駐車場にむかう道の歩道のベンチ下、上手に子猫がいた。
- ・近所で数ヶ月住宅建築のため工事音が続いた。のらねこも見なくなった。2月工事終了、やっと猫にあえた。



# 季節の写真集 (12月~2月)



「ウラナミシジミ」

12/4 水元公園(水産試験場跡地)

名前：下山田 隆



「ノイバラ(赤い実)とスズメウリ

(白っぽい実)」

12/3 区北西部

名前：石鍋 寿一



「校庭のヒヨドリ」

12/20 金町

名前：瑛ちゃん



「ホシハジロ（右2羽）」  
1/1 区北西部  
名前：石鍋 寿一

「キセキレイ」  
1/7 水元公園（水産試験場跡地）  
名前：下山田 隆



「今年も咲くよ」  
1/23 金町  
名前：瑛ちゃん





「首を傾げるジョビ男」  
ジョウビタキ  
1/31 南水元  
名前：むしあお

「フキノトウ (フキ)」  
2/2 水元3丁目  
名前：佐々木 定治



「ヒヨドリジョウゴ」  
2/4 区北西部  
名前：石鍋 壽一

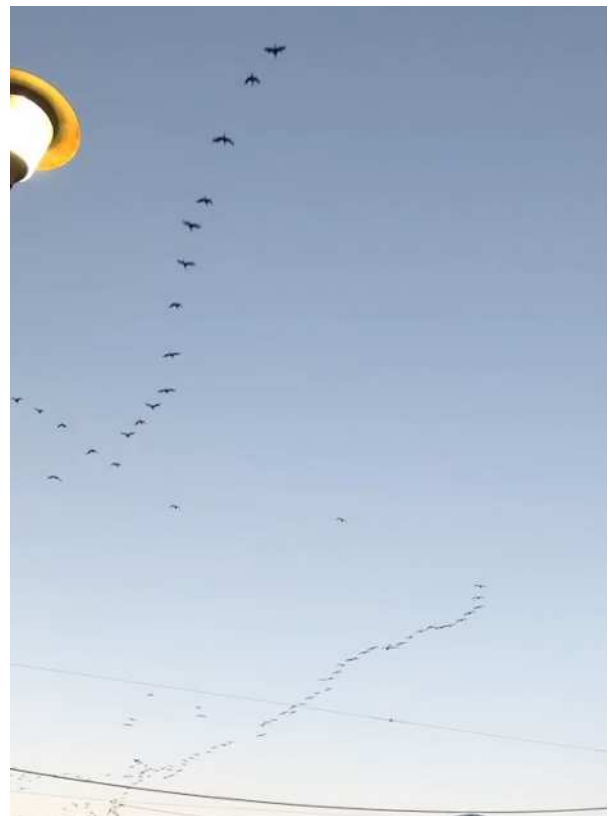




「カンムリカイツブリが何度も  
水に潜っては、ひょっこり浮かん  
できていました」  
2/11 中川橋  
名前：有泉 桂子



「夕陽がまぶしい地域ネコ」  
2/6 金町  
名前：瑛ちゃん



「次から次にカワウの大群が西から  
東に飛んで行きました」  
2/12 堀切  
名前：有泉 桂子



「ロウバイ」  
2/12 水元公園  
名前：むしあお



「コガモ♂」  
2/19 水元公園(水産試験場跡地)  
名前：下山田 隆



「ヤハズエンドウ」  
2/25 水元公園  
名前：ゆきひめ



「サクラソウ」  
2/28 お花茶屋  
名前：R

名前：高橋 雅子

## 季節の写真集 冬

☆隣の家のゴイサギさん（東立石）

☆冠羽の立派なコサギさん（水元）



☆ツグミ（水元公園）



☆ジョウビタキ（水元公園）



葛飾柴又新八水路 魚からの便り-305

調査次数 調査日 地点		307			備 考
		2022/12/10			
		本流	新八水路	新八ワンド	
1	ア シ シ ロ ハ ゼ	1 41			
2	カ ダ ヤ シ		28 12-39	100 11-33	特定外来生物
3	ギ ン ブ ナ		3 55-72		
4	タイリクバラタナゴ		1 23		
5	ヌ マ チ チ ブ	5 39-45			
6	ボ ラ	6 164-185			
7	マ ル タ	1 105			
8	メ ダ カ		8 20-28	1 18	
計		4種類13個体	4種類40個体	2種類101個体	

・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）

- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて8種類154体の魚類が採集されました。
- ・ 晴れ、気温16.5℃、水温 本流10.5℃、新八水路13.4℃、新八ワンド11.3℃(14:40頃測定)

「参考」江戸川の水位（観測所：千葉県市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）  
(10:00)1.87m (12:00)1.70m (14:00)1.73m

【参加者コメント】

- ・ 12月にしては暖かく、昼過ぎにはボラ（？）がもじっているのが見えました。新八水路沿いの葉が落ちた木に、カラスのハンガー巣発見。子育ての頃、誰も襲われなくてよかった。（KI）
- ・ 寒さの厳しい季節になりましたが、なんとか一匹でも捕れてよかったです！（MO）
- ・ 気温上昇、微風、陸上は穏やかな小春日和。しかし川の水温は10度ほど、しかも水位が高くて魚がほとんど採れず。辛抱の季節が始まった。ワンドの中にヨシが増えたので、暖かい日に抜きたい。（SI）

【今後の調査日】

2023年 1月21日(土) 2月19日(日) 3月25日(土) 4月8日(土)

HP ( <http://shigenori1.jimdo.com/> ) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】



葛飾柴又新八水路 魚からの便り-306

調査回数 調査日 地点		308			備 考
		2023/1/21			
		本流	新八水路	新八ワンド	
1	オ イ カ ワ	2 27-33			
2	カ ダ ヤ シ		69 13-38	14 14-29	特定外来生物
3	ギ ン ブ ナ		3 54-60		
4	ニ ゴ イ	1 78			
5	ヌ マ チ チ ブ	5 29-53			
6	メ ダ カ		12 21-31	1 27	
計		3種類8個体	3種類84個体	2種類15個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて6種類107体の魚類が採集されました。
- ・ 晴れ時々曇り、気温8.8℃、水温 本流7.8℃、新八水路6.3℃、新八ワンド6.8℃(14:40頃測定)

「参考」江戸川の水位（観測所：千葉縣市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）  
(10:00)1.76m (12:00)1.78m (14:00)1.78m

【参加者コメント】

- ・ 北風に吹き寄せられて岸の石にあたり、チリチリ鳴るガラス瓶の音を聞きながら網を打っていると、心底風流な事やっているなと思います。  
あまりに魚が採れないと、網の中に動くものがいた時に自分の目を疑う感覚、久々です。  
(KI)
- ・ 強風と波がありましたがなんとかヌマチを取りました！ 過去1番嬉しいヌマチかもしれません。(MO)
- ・ 水槽内の魚の種類は少なかったのに、水槽を見て関心を持ってくれる通り掛かりの方が大勢いて、とても嬉しい。足の故障もあったが、本流で何も採れなかったのが悔しい。(SI)

【今後の調査日】

2023年 2月19日(日) 3月25日(土) 4月8日(土)

HP ( <http://shigenori1.jimdo.com/> ) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-307

調査回数 調査日 地点		309			備 考
		2023/2/19			
		本流	新八水路	新八ワンド	
1	ア ユ	3 47-61			シラス期1個体
2	オ イ カ ワ	1 62			
3	カ ダ ヤ シ		14 17-35	107 13-40	特定外来生物
4	ギ ン ブ ナ		1 57	1 51	
5	ゴ ク ラ ク ハ ゼ	2 58-67			
6	サ ケ	1 45			
7	タイリクバラタナゴ		8 19-29		
8	ヌ マ チ チ ブ	2 45-49			
9	メ ダ カ		13 20-31		
計		5種類9個体	4種類36個体	2種類108個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて9種類153個体の魚類が採集されました。
- ・ 曇り、気温18.2℃、水温 本流9.5℃、新八水路10.8℃、新八ワンド12.1℃（14:30頃測定）  
「参考」江戸川の水位（観測所：千葉県市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）  
(10:00)1.64m (12:00)1.67m (14:00)1.68m

【参加者コメント】

- ・ この時期なら海の沿岸にいるはずの変態前のアユ1個体と、生時はほぼ透明な未成魚2個体が採れた。変態前のアユは厳冬期の沿岸、例えば、お台場海浜公園の浅場などでしか見たことがない。あの脆弱な体で江戸川の水閘門を通して溯上してきたことに驚いた。本流で採れたゴクラクハゼは春から秋に見られる鱗の青緑色の鮮やかな輝点が見られなかった。冬場は地味な体色になることを知った。（KI）
- ・ ワンドの前のフェンスぎわに、微妙に等間隔にスイセンが生えて（？）いることに気付きました。草刈りとか手伝ってくれたらいいのに。サケの稚魚が久しぶり（中二年ぶり？）に採れて、社会の変化の兆しを感じました。（KI）
- ・ 春を告げる魚が採れました。来月の春告魚が楽しみです。（MT）
- ・ 水温は低いものの、気温があって活動しやすかったです！（MO）
- ・ ワンド内の水面の半分以上がアシで覆われている。もう少し暖かくなったら抜く作業に取り掛かりたい。1時間必死に探してヌマチチブ2匹は寂しかった。水路でヒキガエルを二匹確認、そろそろ産卵のシーズンだ。（SI）

【今後の調査日】

3月25日(土) 4月8日(土)

HP ( <http://shigenori1.jimdo.com/> ) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】



## 環境課からのお知らせ

環境課自然環境係  
電話03-5654-8237（直通）

### ★「かつしか環境・緑化フェア2023」を開催いたします★

【開催日時】令和5年6月11日（日） 10時～15時（予定）

【開催場所】テクノプラザかつしか（青戸7-2-1）

かつしか環境・緑化フェア2023では、「自然環境レポーターの活動報告スペース」を設け、クイズを交えたパネル展示などをする予定です。当日、お手伝いをしていただける方を後日、募集いたします。当日は色々なブースに分かれての出店をしておりますので、是非お立ち寄りください♪

※詳細は今後の広報かつしか（掲載予定）をご覧ください。なお、現時点では開催予定ですが、新型コロナウイルス感染状況により、中止となる場合がございます。

### ★自然環境レポーターの研修会を開催しました★

令和5年2月25日（日）、「野鳥と動植物のつながり」をテーマに、水元かわせみの里で早春の自然観察会を開催しました。野鳥の生態、昆虫や植物とのつながりなどについて、講師の解説を聞きながら実際に野鳥を観察することができました。研修会の最後に水辺のふれあいルームで、記録を取り続けることの大切さについてお話いただきました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

### ★新八水路で魚類調査を行います★

日 時 2023年 4月8日（土）、5月7日（日）、6月4日（日）、7月15日（土）、  
8月12日（土）、9月10日（日）

午前10時～午後4時ごろ

場 所 江戸川河川敷 ※事前にご連絡をお願いします。

持ち物 着替え、昼食、飲み物、首に巻くタオル、短くないソックス

◆詳しくは、「新八水路魚類調査」で検索し、ホームページをご覧ください。

HP（<http://shigenori1.jimdo.com/>）

#### 《お詫びと訂正》

「水辺のふるさとかつしか」冬号（第323号）に誤りがありました。ここに深くお詫びし、訂正させていただきます。※ホームページは差し替え済みです。

- ・ P. 20 「昆虫情報」2行目  
アゲハチョウ → アカボシゴマダラ
- ・ P. 26 写真③  
ヒョウモンチョウ → キタテハ

～春号でご協力いただいたみなさま～

Rさん、有泉桂子さん、石鍋壽一さん、瑛ちゃん、  
江戸川の小鮒さん、江良ヒデ子さん、K・Nさん、  
佐々木定治さん、散歩の花子さん、下山田隆さん、  
高橋雅子さん、田村ひろ子さん、千葉美文さん、T・Kさん、  
となりさん、トム姉さん、広瀬温さん、藤並剛さん、むしあおさん、  
弥生さくら草さん、Ryuさん、ゆきひめさん、  
自主生物調査団(編集:一澤成典さん)

ご協力ありがとうございました☆彡

「水辺のふるさとかつしか」第324号  
(葛飾区 自然環境レポーター通信第276号)

令和5年3月末 発行

葛飾区環境部環境課自然環境係

〒124-8555 葛飾区立石5-13-1

Tel.(3695)1111 内線3522～3

直通電話 (5654)8237

fax (5698)1538



◆「水辺のふるさとかつしか」の内容について、お間違い等お気づきの点がありましたらお知らせください。